

会 議 録

会議名		平成28年度第2回図書館協議会	
事務局		図書館	
開催日時		平成28年8月24日（木）午前10時～正午	
開催場所		図書館別館	
出席者	委員	田中 幸夫、藤森 洋子、鴨下 万亀子、石田 静子、内田 美帆、船崎 尚 吉田 和夫、坂野 勝一、中里 成子	
	欠席者	大友 敬三	
	事務局	菊池館長、西村庶務係長、岡本（正）奉仕係長、岡本（幸）奉仕主任、池内主事 山下主事	
傍聴者の可否		可	傍聴者数
傍聴不可・一部不可の場合はその理由			
会議次第	<p>1 議 題 (1) 図書館のあり方について</p> <p>2 報告事項 (1) 第2次小金井市子ども読書活動推進計画の進捗状況について (2) 平成28年第3回小金井市議会臨時会及び第2回小金井市議会定例会報告 (3) 6施設複合化プロジェクトチームの進捗状況について</p> <p>3 その他</p> <p>4 配布資料 (1) 第2次小金井市子ども読書活動推進計画進捗状況（事前送付） (2) 図書館だより（第35号） (3) 第2次明日の小金井教育プラン (4) 平成27年度 事業のまとめ 小金井市公民館 (5) 月刊こうみんかん（No.458、459、460）</p>		

平成28年度第2回 小金井市図書館協議会

平成28年8月24日

【菊池館長】 皆様、おはようございます。本日はお暑いところ、またご多忙中のところ、8月という夏休みにお集まりいただきまして、ありがとうございます。

本日は、大友委員から欠席のご連絡をいただいております。また、内田委員から少し遅れての参加になるということでご連絡いただいておりますので、ご報告いたします。

始める前に、本日の会議の報告事項担当と、初めて出席させていただく職員を紹介させていただきます。緑分室の岡本主任です。子ども読書活動推進計画を担当しております。

【岡本奉仕主任】 岡本と申します。よろしくお願いいたします。

【菊池館長】 本館の児童を担当しております池内です。

【池内主事】 池内と申します。よろしくお願いいたします。

【菊池館長】 本館の山下です。産休中の栗栖にかわって庶務を担当しております。

【山下主事】 山下と申します。よろしくお願いいたします。

【菊池館長】 よろしく願いいたします。

それでは、まず資料の確認からさせていただきます。

【西村庶務係長】 お手元の資料のご確認をお願いします（資料確認）。

続きまして傍聴についてお話しします。本日はいらっしゃらないですが、図書館協議会は傍聴可能ということで開催しております。ですが、手話通訳が必要な方や、小さなお子さんがおり保育が必要な方については、今まで体制を整えることができていませんでした。しかし、今年度から予算がつきまして、そういった方にも傍聴していただける体制が整ったことをご報告いたします。ただ、今回については先週の金曜日まで事前申し込みをさせていただいたのですが、ご希望の方はいらっしゃらなかったという状況です。

【菊池館長】 それでは田中会長、会議開催につきましてよろしくお願いいたします。

【田中会長】 それでは、第2回的小金井市図書館協議会を始めたいと思います。皆さんのお手元に次第がございますけれども、1議題、2報告事項、3その他となっております。1の議題、見ていただいたらわかりますように、非常に大きな案件なので、これを最初に手をつけてしまうと、協議会が明日までかかってしまうので、最初に2の報告事項からしていただき、その後で議題1に戻りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【田中会長】 では、最初に報告事項から始めます。(1)第2次小金井市子ども読書活動推進計画の進捗状況についてということで、最初に事務局からご説明をお願いします。

【岡本奉仕主任】 緑分室の岡本と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、第2次小金井市子ども読書活動推進計画の進捗状況について、報告をさせていただきます。資料は事前にお配りしました資料をご覧くださいと思います。

まず、前回の会議で、第3次第小金井市子ども読書活動推進計画をお配りさせていただきましたが、今回報告いたしますのは、第2次小金井市子ども読書活動推進計画でございます。

それでは、第2次小金井市子ども読書活動推進計画の進捗状況について、報告をさせていただきます。また、今回の報告をもちまして第2次小金井市子ども読書活動推進計画は終了となり、来年度からは第3次の報告を行っていきます。本日は、事前を送付させていただきましたので、説明は概要のみとさせていただき、質疑の際に何かございましたらお答えしていきたいと思っております。

それでは、施策の体系1、家庭・地域をご覧くださいと思います。家庭や地域では、読書活動に興味を持ってもらえるよう、図書館で講座を開くことやリサイクル図書を配布する活動などを行ってまいりました。

施策の体系2、図書館では、図書館が読書活動の中心となっていくことを計画し、パンフレットの配布やイベントを行ってまいりました。

次のページ、施策の体系3、学校・学校図書館では、学校活動の中で読書習慣を身に付けてもらえるように読書環境の整備や読書感想文の取り組みを行ってまいりました。

施策の体系4、生涯学習と関わりのある教育機関では、関係する生涯学習課や公民館での情報提供や公民館のイベントの際に図書館の場所を提供してまいりました。

3ページ、施策の体系5、保育園・児童館、子どもと関わりあいのある諸機関では、関係する保育課、子育て支援課、児童青少年課、自立生活支援課、健康課等、多くの課で図書に関わる取り組みを行っていただきました。

最後になります施策の体系6、啓発・広報等の推進では、イベントの周知に力を入れてまいりました。第2次小金井市子ども読書活動推進計画の事業は、継続している事業が多く、第3次小金井市子ども読書活動推進計画でも引き続き活動していく事業がございます。図書の重要性については年代を問わず大切なものですので、今後も引き続き図書に親しめ

る環境づくりに力を注いでまいりたいと思っております。簡単ではございますが、説明は以上となります。

また、事前に質問をいただいておりますので、そちらについてご報告をさせていただきます。先にいただきました質問としまして、まず1つ目、施策の体系2の(1)、図書費の増額、こちらにつきましては、幾ら増額しようとしたのか金額を教えてくださいというご要望をいただきました。現在の市の厳しい財政状況を踏まえまして、今回、図書館としては現状維持で要求をしておりますので、増額は難しかったということでございます。

続きまして、同じく施策の体系2の(2)、配架の見直しの進捗状況の報告で、「継続して検討した」とあるが、検討した結果を載せるべきではないかというご意見をいただきました。図書の配置につきましては平成27年度まで検討を重ねてまいりました。その上で、平成28年度に実際に他市の図書館を参考に、緑分室で図書の配置を検討してきました。こちらにつきましては、第3次の進捗状況で報告を予定しておりますので、本日につきましては報告を持っておりません。

続きまして2の(5)、児童室の改装とあるが、改装すれば何か結果があるのではないかというご意見をいただきました。改装には子どもたちが図書館を利用する上での安全面を考慮する部分が含まれており、昨年度までは緑分室の書架の上に本が置いてある状況がございました。それをなくし、安全面の確保を行いました。また、本館では本の重みで傷んだ書架の一部を修繕することで、安全性の確保を図りました。さらに、児童室のソファですが、長年の利用でしみや汚れが付着していたため、これを張りかえ、気持ちよく座って本が読める環境づくりを行ってまいりました。

続きまして、施策の体系2の(13)、多言語図書の充実で、英語の図書しか買っていないが、多言語とは英語だけを指すのかというご質問をいただきました。多言語はあくまで多言語で、英語以外のほかの言語のことも指しております。ただ、昨年度購入した図書は英語の図書だったということをご報告をさせていただきます。

施策の体系4の(2)のア、進捗状況に、公民館の事業ではありますが、「図書館と共催」という記載がございます。こちらが図書館側にも記載すべきではないかということでご意見をいただいておりますが、こちらは主担当が公民館側であり、図書館はこの支援に当たっていたため、公民館側の事業として掲載をさせていただきました。

事前にいただきました質問は以上となります。そのほか質問等ございましたらお答えさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

【田中会長】 ありがとうございます。今、岡本さんから概要として説明と、それから事前にあったご質問に対してお答えがありましたけれども、何かご質問、ご意見ございましたら、発言をお願いいたします。

【船崎委員】 いくつか質問なのですが、まず1つは、施策の体系2の図書館の(3)、団体貸出の充実と貸出方法のシステム化とあるのですが、このシステム化について具体的なことがわかりましたらご説明願いたいです。

次に、(8)のブックスタート事業の資料提供等について、図書館としては「乳幼児向け推薦図書パンフレットを配布した」とあるのですが、推薦図書はどこで選んでどこで買っているのかというのが私の質問です。というのは、ブックスタート事業は所管課が健康課になっておりまして、健康課でボランティアさんを雇って読み聞かせをやっているのですが、そこに図書館が関わらないのかどうかという、いわゆるブックスタート事業の実態、特に図書館の関わり方と健康課の関わり方ということについてご説明願えればと思います。以上です。よろしく申し上げます。

【岡本奉仕主任】 まず1点目、2の(3)、システム化のところにつきましては、要綱の改正を行いまして、申請書類等を統一させることで効率的にし、システム化を図っているところがございます。今までも同じような書類を使ってはいたのですが、貫井北は去年から団体貸出を始めたので、この辺の効率を図ったということがございます。

続きまして2の(8)、推薦図書というところがございます。まず、資料につきましては、図書館で策定しました推薦図書を健康課にお渡ししまして、健康課のボランティアの方々が、ブックスタート事業のボランティアの方々にこちらを一緒に配布していただいているというところがございます。実際に昨年度要望いただきまして、300部追加でお持ちしたり、図書館の案内、初めて来館された方にお渡しするような資料もぜひ持ってきてほしいということで、そちらを600部お持ちして、あわせて一緒に配布していただく形で協力しております。

【船崎委員】 わかりました。ありがとうございます。

【田中会長】 そのほかございませんでしょうか。

【石田委員】 6の(3)、読書感想文コンクールの実施ということで、第2次の結果だと思っておりますが、応募数1,791点、これは小金井市民だけなのでしょうか、利用している人全てにおいて対象としているのでしょうかということと、それが2015年ですよね。ですから、次の第3次にもこの同じ計画をするのかどうかということと、「表彰式を実施

し」ということは、図書館の本館で賞状を渡したのか、それとも読書感想文コンクールの発表会のようなものを行われたのか、少しここがわからないので、その辺をお聞きしたいと思いました。

【岡本奉仕主任】 まず、大変申し訳ないですが、応募数1,791点のところにつきましては、所管課の指導室が行われておりまして、図書館側で、参加されている方々が市内の方なのか市外の方なのかについては、現状として情報は持っていません。そこにつきましては、また改めて確認をした上でご回答させていただければと思います。

次に、第3次も継続するかにつきましては、読書感想文自体は継続して行っています。指導室から事業としていただいておりますので、読書感想文の事業はございまして、指導室の目標としては、それに参加する児童であったり、表彰される児童を増やしていきたいということです。第3次の計画ですと、25ページの30の(4)のところに事業が載っております。

【石田委員】 会場を借りてお渡ししたのですか、それとも……。

【岡本奉仕主任】 今、詳しいことを把握できていないところもございまして、表彰の仕方につきましても確認をして改めて報告させていただきます。

【石田委員】 では読書感想の表彰した人の発表会のようなことはしてない？

【岡本奉仕主任】 図書館では行っていません。

【石田委員】 そのほかでもやってない？

【岡本奉仕主任】 そのほかでやっているかどうかにつきましては、確認をしまして次回でよろしければ報告させていただきます。

【石田委員】 はい、お願いします。少し興味があるもので。

【田中会長】 そのほか何か。

【吉田委員】 2の図書館、(15)の学校図書館のコンピュータシステム導入に向けた支援というところですが、「導入済のため実施は終了」ということなのですが、2つ質問があります。

1つは、学校図書館のコンピュータシステムというのをどのようにお考えになり、終了ということまでどこまで達成されたのかということについてです。また、それによって今後はもうコンピュータシステムを使わないのかということです。

もう1つは、デジタル教材等デジタルコンテンツがかなり多くなっていますが、その辺の扱いについては今後どのようにお考えか、その2点をうかがいたいと思います。

【岡本奉仕主任】 まず、学校図書館のコンピュータシステム導入に向けた支援のところですが、こちらにつきましては、学校側が図書館システムを入れる際の参考として意見等を聞かれた際に対応させていただき、支援をしたということで終了したということになります。なので、入れたものにつきましてはあくまで学校側で検討していただいたと聞いております。

また、デジタル化の部分ですが、まだ検討まで至っていないところが現状でございます。今年度、予算において図書館内で利用者用のインターネットについて考えが進められているところがございますので、デジタル化につきましてはその辺を調整しながら進めていくことになると思います。

【田中会長】 そのほかどうぞ。

【鴨下委員】 何点か質問させていただきます。

まず、学校関係のところですけれども、2の図書館の、質問のあったコンピュータシステムの導入についてなのですが、これは具体的に図書館が相談に乗ったということなのですか。学校図書館のコンピュータの導入についてはとてもいろいろな問題があると思うのです。例えば、バーコードをどこから手に入れているのか、あと、そのコンピュータ操作をするのが一体誰なのか、司書教諭がするのか、支援員の方がするのか、委員会の子がどこまで関わっていくか、やはりそれは学校の現場で大きな問題ですので、もし図書館としてこのことを挙げるのでしたら、その辺をきちんと状況を踏まえた上で支援をしていただきたいというのがあるのですが、その辺、具体的に教えてください。

それからもう1つは、読書感想文のことなのですが、6の(3)です。指導室が行っているようですが、実際にこの感想文をどのように募集しているのか、審査は誰がしているのか、その表彰はどのようにしているのか。やはりコンクールをするということはそういう点がとても大事なことだと思いますので、図書館の事業としてここに掲載するのであるならば、そういうことをきちんと踏まえておく必要があるのではないかと思いますので、その辺のことを教えていただければと思います。

それからもう1つは、公立保育園・幼稚園の図書購入についてですが、「全園まとめて購入することにより、事務の効率化を図った」と書かれているのですが、これは一体どういうことなのか、具体的にどのような方法で購入して事務の効率化を図っていくのか。私は、事務の効率化よりも、各園が買いたい本を買うことが図書館としては大事なのではないかと考えているのですが、その妨げになっていないのかどうか。その辺についてお願いいた

します。

【岡本奉仕主任】 1つずつ回答させていただきます。

まず、2の(15)、操作は誰がするのかというところでございます。こちらにつきましては大変申し訳ないですが、現状の詳しい内容につきましては学校関係者に確認させていただきまして、その上でご回答させていただければと思いますので、こちらも次回回答させていただきたいと思います。

続きまして、感想文をどう扱っているのかということでございます。こちらは昨年、市教委の方々と意見交換をさせていただいた際、感想文をどのように集めるかということについては、学校の宿題として出されている学校もありますし、中にはこういうのをやるよという通知のみで終わられている学校もあるということで、学校でも取り組みがばらばらであるということを、市教委の皆さんとの話し合いの中で言われました。その中でも市教委の方は、全校一丸となって取り組むべきではないかということで、指導室に意見を出している学校もございました。なので、そのように読書感想文につきましては今指導室が中心となって行っておりまして、各学校での取り組みについては温度差があるのではというのが正直なところでございます。

また、5の(1)のア、公立保育園の図書の購入についてですが、今、保育課が中心となって図書の購入を進めております。各園の要望を聞いて対応する方法が理想ではあると思うのですが、そうしますとどうしても事務職員の負担が大きく、保育課は昨年度の時間外が大変多い課でございまして、事務効率を良くするために、買うときはまとめて一気に買うということで効率化を図ったと聞いております。

【鴨下委員】 一気に買ったということは、年間このときに一緒に買うということでしょうか。

【岡本奉仕主任】 一気に買うとしか聞いてないので、時期がいつなのかについては、少し確認してみます。

【鴨下委員】 でも、購入を4回行ったと書いてある。

【岡本奉仕主任】 こちらに書いてあるのは、4回まとめて買ったということで、どの時期にというのは今の段階でははっきりとしたことは申し上げられないので、まとめて買っているということで我々は報告を受けています。

【鴨下委員】 では各園から、今回はこの本とこの本を購入したいということを保育課に出して、保育課が一括して買っているということですか。

【岡本奉仕主任】 事務的な流れはそういう流れかと。

【鴨下委員】 はい、わかりました。

質問に答えてもらってないのですが、感想文コンクールの審査は誰がしているのか、表彰は例えばどういう表彰があるのか、市長賞であるとか。

【岡本奉仕主任】 漏れておりまして申し訳ないです。まず、審査につきましては、学校の宿題でやっているところは各学校の市教委等でやられていると聞いております。都に出されるものにつきましては、その中から選りすぐったものを出すということを聞いております。実際に今年度のやり方等詳しいことはまた指導室に確認させていただきまして、取り組みの状況、私がお話しさせていただいたのは、昨年度に市教委の方とお話しさせていただいた際のものなので、今年度の取り組みにつきましてはまた改めて確認をさせていただければと思います。

【菊池館長】 いろいろご意見をいただきましてありがとうございます。子ども読書活動推進計画でございますが、関係各課が複数ございまして、詳細については図書館で把握し切れてないところもございます。今、岡本から後日回答させていただくようにありましたので、ご容赦いただきたいと思います。

第3次子ども読書活動推進計画の庁内の会議があったのですが、実績につきましてはなるべく数値化して出したほうがわかりやすいのではないかと案がありました。先ほどご質問がありましたけれども、「継続して検討する」といった曖昧な言葉ではなく、できるところは数値化していこうという話もありましたことをご報告させていただきます。

【田中会長】 そのほか。

【鴨下委員】 1の家庭・地域の（5）の図書館・学校との協力・連携による地域文庫の図書の充実というところですが、充実したということで「リサイクル図書を配布した」とあるのですが、私も先日いただいてきて、とても有効に活用していますが、それだけでなく、例えば新刊図書のブックトークのような紹介を文庫に行く、各学校に本の紹介の読書指導をするなどボランティアとして参加する・・・など、そういうことはやっていらっしゃるのでしょうか。ほかのところに書かれているのか、少しわからないのですが、もう少し充実が図られるような内容はないのか質問させていただきます。

【岡本奉仕主任】 まず、新刊の紹介や文庫さんへの読書紹介という形で、事業につきましては現状まだ実施ができてないところがございます。ただ、例えば利用者から「4年生の子にこういう本を読み聞かせてほしい」といった、具体的なご相談があれば対応し、

また、そういうリストを作ろうという考え方も現状は持っておりますので、少しずつ内容の充実に向けた取り組みをさせていただいているところです。

【田中会長】 そのほかありますでしょうか。

ないようですので、次の報告事項に移らせていただきます。(2)平成28年第3回小金井市議会臨時会及び第2回小金井市議会定例会報告ということで、事務局から報告をお願いします。

【菊池館長】 臨時会と定例会並びに委員会の報告をさせていただきます。6施設複合化に関する報告もございますが、それに関するご質問は、この次の報告事項(3)のところでまとめてお受けできればと思いますので、よろしくお願いたします。

では、まず5月に開催された臨時会について、図書館に関わる事項を中心に3点ご報告いたします。

1点目でございます。平成28年度の一般会計予算です。4月、5月と暫定予算でございましたが、この臨時会で本予算が可決されました。それにより、図書館での図書の購入、平成28年度の新規事業である本館の空調設備の設計工事委託に着手できました。また、利用者用のインターネット端末も9月の利用開始に向けて準備を進めているところでございます。

2点目でございます。上原秀則氏が議会の同意を得て5月20日付で副市長に就任いたしました。任期は28年5月20日から平成32年5月19日までの4年間となります。副市長2名体制になったところですが、6月30日付で川上副市長が退任されましたので、現在は上原副市長1名となっております。

3点目でございます。この臨時会において、市長は6施設複合化の一括整備方針を変更され、福社会館機能と防災拠点となる庁舎の複合化を優先させる、つまり本庁舎、第二庁舎、福社会館、本町暫定庁舎、4施設2機能を優先すると発表されておりました。これにつきましてはまた後でご説明させていただきます。

続きまして、6月2日から24日に開催されました第2回定例会のご報告です。図書館に関する一般質問は、斎藤議員より1件ありまして、「公共施設の配置計画について問う」ということで、「図書館の建替えの今後の計画について、民間活力の活用をどのように考えているか」という内容でございました。

具体的には質問が2つございまして、1つは蛇の目跡地に後から図書館を建設することについて、建て替え計画を今すぐスタートできるのかというご質問。それは、庁舎と福祉

会館機能を優先させるという市長の発言に対して、図書館を後から蛇の目跡地に増築や別棟で建設するにしても優先する施設の計画に影響があるのでどのように考えているかということでございました。こちらにつきましては、生涯学習部長が、中央図書館の整備も含めた図書館のあり方についての検討を来期に着手していく。6施設複合化プロジェクトチームや策定中の公共施設等総合管理計画も視野に入れ、図書館協議会を中心にご意見を伺いながら進めていきたいという趣旨の答弁をしております。

もう1つは、本町暫定庁舎に隣接するマンションと図書館を一緒に建設したらどうかというご質問がございました。こちらは、本町暫定庁舎の隣の敷地にマンションが建ててございまして、そのマンションの建て替えが諸般の事情によりなかなか難しいということのようでして、本町暫定の敷地とあわせてマンションと図書館を民間との共同事業で建ててはどうか、3,500平米程度の床面積が見込めるので図書館はどうか、そういうご質問がございました。実は平成26年に、このマンションと福社会館を一緒に共同事業として進めたらどうかという陳情が出されておりますが、不採択になった経過がございます。答弁といたしましては、図書館は6施設複合化プロジェクトチームで検討を重ねており、また、図書館のあり方等の筋道を定めることにまず取り組まなければならないので、現時点で検討というものにはならないと考えるということを生涯学習部長が答弁しております。

6月14日の厚生文教委員会では、図書館関係はございませんでした。

6月22日開催、全員協議会で6施設プロジェクトチームが4施設2機能複合化を優先させる中間報告書を提出いたしました。しかし、議会が要求した資料が中間報告書に含まれていなかったために、質疑に入らないまま会議は終了となりました。議長から、要求について検討・協議していきたいと発言があり、関連補正予算は取り下げられました。このことについて、西岡市長に対し、全員協議会での議長の発言を重く受けとめることを求める決議が全会一致で可決されております。

議会の報告は以上になります。

【田中会長】 ただいま議会の報告がありましたけれども、ご質問がございましたら発言をお願いします。

【坂野委員】 ご説明ありがとうございます。第3回の臨時会と第2回の定例会について、議事録はもうまとまっていますか。

【菊池館長】 まだホームページを見てないのでわかりません。

【坂野委員】 わかりました。質問したかったのは5月に行った第1回定例会なので、

今、菊池館長からご説明いただいたことと異なりますので、少し質問しにくいわけですが、第1回のときの議会議事録をずっと見ていまして、後ほど議論させていただく図書館のあり方について関連しますので、すみませんがここで質問させていただきたい。

第1回定例会の中で、上石前館長が議員からの質問に答えまして、西岡市長からの回答の後に発言されています。その部分を一部分だけ言います。「現在の本館は手狭であり、ハード面、ソフト面とも十分であるとは言い難いところですが」というところです。これについて、「ハード面」については、施設の面で非常によくわかります。本館に行けばすぐ様々な問題点、不十分な点はわかります。しかし「ソフト面で十分であるとは言い難い」という、その「ソフト面」の内容が私にはわからなくて、今後、図書館のあり方を考えていく上で何を言っているのかがわからないと戸惑います。図書館利用者としての経験から言っても、小金井市立の図書館で200冊ぐらい、小金井市立以外の図書館でも200冊ぐらいを一年間に借りていますけど、「ソフト面」で不自由だと感じたことは他所と比較してありません。探せば多少はありましようけど、「ソフト面」という言葉をわざわざ上石前館長が議会で挙げられたその理由をお教えいただければと思います。ですから、第3回臨時会、第2回定例会ではないのですが、第1回定例会についてご質問にお答えいただければと思います。

【菊池館長】 前館長の発言ですので、私の思うところの「ソフト面」ということでお答えさせていただきます。レファレンスサービスや、ヤングアダルトサービス等、図書館のサービス部分をソフト面というように表現することがあるのではないかと考えております。

例えば、レファレンスサービスであれば、利用者の方が研究調査を目的として必要な情報を求められたときに、図書館員が利用者と情報を結ぶお手伝いをさせていただいております。そのためには常日頃から資料情報収集や、検索のスキル、運営機関や大学との連携、図書館の内部や外部との情報交換や研修等、レファレンスサービスを支える土台づくりが必要となっておりまいます。また、レファレンスサービス自体を知らない方に利用していただくためにPRを続けていくことも必要になってくるかと思っております。私どもでも実践していることは多々ございますが、利用者の目線で考えますと、まだまだ十分とはいえないかなと思っております。

「ソフト面」を図書館サービスと考えると、「ハード面」は先ほど坂野委員がおっしゃっております施設面や機能、図書館システム、そういったものになるのかと思っております。施設が広く新しくなれば、ハード面が整備され、それによって利用者の閲覧環境が整うと、ソ

フト面も充実していくと言えるのではないかと思います。どれがハードでどれがソフトだ
というように明確には切り離せない部分も多いのではないかと考えております。

【坂野委員】 ありがとうございます。繰り返しますが、私は小金井市の図書館を利用
していて「ソフト面」については他所に比べて不便と感じたことがないのです。「ハード
面」では嫌というほどあり、もっと充実させていくべきだろうと思いますけど。

「ハード面」については、小金井市は確かに予算の制約があるかもしれませんが、「ソ
フト面」で追いついてさらにそこを充実発展できればみんなが自慢できるような図書館に
なるのではないかということ、また次の議題の「図書館のあり方」のところで議論させ
ていただければと考えております。

【菊池館長】 ありがとうございます。なかなか褒めいただくことが少ない図書館な
ので、非常に嬉しく思っております。ハード面は確かに予算を伴うものが多く、ご意見
いただきまして、ごもっともと思うことが多いのですけれども、解決がなかなかできないこ
ともございますが、サービス面では職員一同頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく
お願いいたします。

【田中会長】 そのほか何かご質問はございますでしょうか。

ないようでしたら、次の報告事項に入ります。(3)6施設複合化プロジェクトチームの
進捗状況について、事務局からお願いいたします。

【菊池館長】 今までのお話と重複する部分もあるかと思いますが、ご容赦ください。

前回の図書館協議会は5月12日で行われました。そのときに、蛇の目跡地の図書館に
ついてどのような機能・規模の図書館が必要とお考えかということ、委員の皆様にご意
見を頂戴いたしました。そちらにつきましては、5月23日に開かれました6施設複合化
プロジェクトチームの会議で報告させていただいております。

その後、チームが22日に、先ほど申しましたように中間報告を提出いたしました。こ
の結果は先ほどお話ししたとおりになります。中間報告書でございますが、プロジェクト
チームでの検討途中経過でございます。内容をこの場で口頭でご説明するのは少し難し
いかと思います。市のホームページに掲載されておりますので、ご覧いただければと。

図書館につきましては、前回協議会でご意見を伺う際に、参考資料として出させていた
だいたような小金井市の望ましいと思われる図書館の規模の算出と、現在の図書館の現状
を示すにとどまる内容となっております。このプロジェクトチームは8月までとなってお
りますので、最終報告のまとめに向けて続けられております。

簡単ではございますが、以上が進捗状況になります。

【田中会長】 ただいまのご報告についてご質問がございましたらお願いいたします。

【石田委員】 先ほどの館長の回答の中で、6施設複合化プロジェクトチームが4施設複合化プロジェクトの案が出されたという、その4施設を教えてください。

【菊池館長】 4施設は、本庁舎、第二庁舎、福社会館、本町暫定庁舎。4施設ですが、機能としては庁舎と福社会館。そのため4施設2機能と言われます。

【石田委員】 本庁舎と第二と本町暫定を全部まとめて、そこに福社会館を入れる方向で。

【田中会長】 質問ですけれども、6から4になったということなのですが、外れた2つについては何か言及されていますか。

【菊池館長】 よく市民の方から、図書館外れてしまったねというお声をかけていただくのですが、外れたというように市長は言及しておらず、図書館も蛇の目跡地で整備していく考えを持っています。優先するのが庁舎と福社会館であると言及していますので、図書館も蛇の目跡地で整備していくということで私は伺っております。

【鴨下委員】 では公民館は、今まで福社会館の間借りみたいな感じだったのですが、今度は福社会館と公民館は別ですよ。公民館はどのように検討されているのですか。

【菊池館長】 公民館もこの6施設プロジェクトチームに含まれており、一緒に検討をしています。福社会館ですけれども、本町暫定庁舎のところに福社会館を建てるという、もともとの計画案がありました。そのときに公民館の機能もそこに入ることがあったようで、福社会館の中に公民館も入ってくるのではないかと考えております。

【石田委員】 現在の本庁舎が建っている土地は小金井市のものですか。そうすると、そこに図書館を独立して建てるという案はないのか。

【菊池館長】 今、プロジェクトチームに出されているのは、6施設複合についての検討なので、図書館をどこに建てたらいいかという話ではないです。

【石田委員】 わかりました。

【吉田委員】 6施設から4施設となり、残っているのは、図書館と公民館ですか。

【菊池館長】 図書館と前原集会施設。

【吉田委員】 それで質問なのですが、その2つの施設については、結局単独で何かをやるということになるのか、それともやはり何らかの形で、議員からもご質問があったようですけれども、複合施設、あるいは民間、あるいは別のものとの複合的な施設にするの

か、その辺をまずはどのように考えているのかお聞きしたい。

【菊池館長】 プロジェクトチームの中で4施設2機能を優先する案というようになっていきますので、図書館もやはりまだ検討されている状況です。その辺のところは今後、報告・検討が挙がってくるところです。

【船崎委員】 先ほど最終報告が8月と言ったのは、それ以降、今お話しになっている内容より具体的になっていくのでしょうか。

【菊池館長】 プロジェクトチームが8月までの設置と決まっておりますので、ここで何らかの最終報告書を出すこととなります。どういう形で最終報告書をまとめていくかということは、この会議の中で決まっていきますので、そのところでは具体的になっていきます。

【田中会長】 そのほか何かございますか。それでは、報告事項は終わりました、その他ということで何かございますか。

それでは、私から1つ報告事項ですけれども、科学の祭典のことにしましては、前回お集まりいただきまして話をさせていただきました。それで現在は、科学の祭典に出展することを本部に連絡いたしまして、それで出展内容等につきましてはメールでお送りさせていただき、出展可ということで科学の祭典からお返事をいただいております。実際には10月9日の日曜日が本開催で、その前日に準備等がありますけれども、それにつきましては石田さんと内田さんと私でメール等何らかの方法で8月ぐらいに。また、9月末に最終的な打ち合わせをしたい。そういう状況だということのご報告です。

【石田委員】 現在の段階では9月8日の13時からシンポジウム、出展に対する注意事項、前日準備を行い、従来科学の祭典の終了後に行っていた懇親会を、祭典の当日の終了後では遠くから来る人がいる場合もあり厳しいので、前日の8日の夜に懇親会を持っていったらどうかという話が出ていました。それを試してみるのもいいだろうという段階で、まだ具体化しておりませんが、これからメールでスタッフと協議します。スタッフに対するお弁当は全部科学の祭典の事業費から支出されております。そして出展のために使った材料費の分も、1万円を限度というのはまだ協議されてないのですが、予算的には大丈夫だと思いますので、多分変わらずにいけると思います。今のところそのような状況です。

【田中会長】 ありがとうございます。

その他で何かありますでしょうか。また最後に何かありましたら。

では議題に入りたいと思います。図書館のあり方って、何かものすごい議題でございます。これを見てどうするのだと思いましたが、事務局からご説明をお願いしたいと思っております。

【菊池館長】 議題として、図書館のあり方と挙げさせていただきました。報告事項ではないのでここに載っているのですけれども、本日この場であり方について議論していただくという訳ではございません。今の考え方をお話して、今後のこととお話しさせていただきたいと思っています。

図書館のあり方とは何だろうというところで、思うところがあるかと思っております。図書館の将来像についての検討、計画づくりと考えていただいてもよろしいかと思っております。この図書館のあり方、将来像の計画策定に着手するための準備を図書館では始めたところがございます。本日は、この計画策定の必要性、今考えている計画の中身、これらをどのように作っていくかということ、私の館長私案ということとお話しさせていただきたいと思っておりますので、ご承知おきいただければと思います。

名前はまだ決まっていますが、図書館計画。この必要性でございますが、今、小金井市の図書館の指針となるものは、小金井市立図書館の運営方針でございます。旧運営方針は、平成元年に策定し、その後何回か一部改正しておりますが、全体的な見直しはなされないまま20年以上経過いたしました。そのため、改訂にかなりの時間を要することもありまして、施設計画や数値目標、そういったものは別途検討したほうが良いということになり、運営方針には図書館サービスが目指すところを内容にしたものとなっております。

したがって、運営方針の実現に向けて図書館をどう整備していくのか等、中央館をどうするか等、そういった図書館全体的な具体的な将来像の計画を今、小金井市が持っていないと考えていただいてもよろしいかと思っております。

市の最上位計画であります基本計画にも、市民ニーズに沿った中央図書館の整備を含め、図書館のあり方について市民を交えて検討することが掲げられております。また市議会からですが、平成27年8月に東センターを委託いたしました。このときに公民館、図書館の中長期計画を早急に策定することを求める決議が出され、採択されております。個別の館の運営主体を議論するよりも、図書館の将来像を描くことが最優先課題であろうと議会からも指摘されております。

そして、6施設複合化プロジェクトチームでの検討でも、図書館のあり方、将来像、ビジョンが見えていないことから、図書館はどうしていくか方向性が定まっていないことも

あり、会議の中で検証・検討を進めていく中で、市庁舎はもともと蛇の目跡地に建設する予定で計画を持ち、福祉会館も本町暫定庁舎のところに建てるという計画案を作っておりましたので、そこと比べますと図書館は同じ出発点に立っていないということも感じておりました。

以上のような理由から、図書館の将来像の検討に早急に着手しなければならないと考え、計画策定に至った次第でございます。

この図書館計画という、おおまかで仮称のもとお話ししましたが、実際どのようなものを目指していくのかということですが、まず1つは、今お話ししたように図書館の将来像、ビジョン、図書館のあり方が必要になってくるかと思えます。そしてもう1つは、中央図書館の整備もこちらに入ってくる。そして、事業計画とこの評価指標を含めたいと思っております。そして運営方針。1つ目の図書館の将来ビジョンについては今お話ししたところでございます。

2つ目の中央図書館の整備についてですが、これは蛇の目跡地が候補として出ておりますので、そこを視野に入れてということになるかと思っております。

3つ目の事業計画とその評価指標でございます。ご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、平成20年の図書館法改正のとき、図書館の運営状況に関する評価及び改善並びに地域住民等に対する情報提供が努力義務化されました。図書館評価と言われております。既に着手されている図書館も多くございます。小金井市も運営方針を改定した後、図書館評価に着手していきたいと当時の館長は考えていたようでございますが、諸般の事情によりまだ実現できおりません。今回、計画を策定するに当たり、計画を策定すれば当然として進捗状況、成果が問われます。それを図書館評価と別に考えるよりも、計画の一部として事業計画と評価指標も含めて作っていきたいと思っております。

4つ目の運営方針でございます。平成25年に改定いたしました図書館サービスの目指すところを掲げてございます。残念ながらまだ目指すところに追いついていないもの、実現できていないものもございます。図書館の将来ビジョンは、運営方針の目指すところの実現に向けて支えるために必要なものは何なのか、どのような機能や運営形態が考えられるのか等、運営方針を策定する計画も密接な関係となりますので、1つに集約したほうがよいと考えました。

最後に、どのように作っていくか、策定方法でございますが、今回作ろうとしています図書館計画は、蛇の目跡地の6施設複合化や市が策定中の公共施設等総合管理計画、その

ような計画も視野に入れて検討していく必要があります、進め方も難しいものがあると思っております。具体的には図書館協議会中心に作っていきたいと思っておりますので、次回の協議会に諮問させていただくことを考えております。計画策定のスケジュールもそのときにお示しさせていただきたいと考えております。

【田中会長】 今、一気に説明していただいたとおりですけれども、この説明について感想やご質問をいただければと思います。

【坂野委員】 運営方針の改訂についてお話があったと思うのですが、それは「小金井市図書館運営方針」のことでしょうか。そうすると、平成25年4月1日に改訂されていますので、割と最近改訂されていると思うのですが。

【菊池館長】 最近改訂されておりますが、計画の策定については作り方が幾つかあります。先ほどお話ししたように、中央館についても別に作るという考え方もございました。そのため、運営方針の整合性が図れなくなる可能性もございますので、この図書館計画を作っていく中で、運営方針を改訂するというよりは、それに合わせていこうという考えでございます。

【藤森委員】 この計画、最初は6施設複合化プロジェクトとなっていたのが、今のお話ですと、4プラス2という形になっていますが、そのいきさつはお話いただけますか。

【菊池館長】 市長から、防災機能の拠点となるところを優先させたいというお考えがございました。庁舎と福社会館は防災ボランティアの拠点になるので、そこを最優先としていきたいということで、4施設2機能を優先させるという表現をされております。ただ、優先ということなので、図書館を外したということではなくて、図書館も蛇の目跡地で整備していきたいということには変わりないようです。

【藤森委員】 では、3つ同時進行と考えてよろしいわけですか。

【菊池館長】 優先なので、もしこのまま進めば、庁舎と福社会館が先に動いていくことになるかと思えます。ただ、私も素人ですけれども、同じ敷地の中に庁舎と福社会館が建つ上で、図書館は後だからゆっくり考えればいいというものではやはりないようで、この2施設を先に作っていくことになれば、当然、図書館部分をどこに残すかという話になってきます。場所もさることながら、どの程度の大きさで残すのか。それには、どのような機能を新しい図書館に入れるのかという話になってきますので、やはりこのタイミングでこちらも計画策定に入っていかないと間に合わないということもございます。

【中里委員】 そうしますと、その計画づくりが始まるというのは、今のタイミングで始まるわけですね、諮問等を行いながら。そうしますと、期限は決まっているのですか。大体いつぐらいまでにそれを完成させるという計画は。

【菊池館長】 今考えているところはございます。まだこちらからお示しできる段階ではないのですが、あまり時間をかけてというようにはならないと思っています。

【中里委員】 大まかな期限も決まっていないのですか。

【菊池館長】 そうですね。

【中里委員】 はい。わかりました。

【吉田委員】 なかなかおもしろいというよりも、注目が必要だと思うのですが、しかし、全体計画やビジョンがあまり明確でなかったところから、具体的な施策の方向、それから運用の方法までトータルに考えていくためには、今、期限の問題もありましたけれども、相当な議論の回数が必要ではないかと思います。今後どうなるかわからないですけれども、協議会のこの回数では、とてもではないけれどもやっていけない。あるいは分科会を作って、もう少し分担してやるのか。良いものをつくろうとすればするほど、やはり議論が必要だと思うので、そのあたりはどのようにお考えなのかをお聞かせください。

【菊池館長】 確かに年数回しかない協議会ですので、その中で作っていただくというのはなかなか難しいかと思います。その点も含めて、次回、ご用意させていただきたいと思っております。

前回、鴨下委員から、計画を策定するにはこの回数では少ないというお話もいただいておりますので、事務局でもそのところは、スケジュールを調整しながら、回数増も検討していきたいと思っております。

【吉田委員】 質問ではなく協議でいいのですが、私がここに入ってくる以前、小金井をそれほど知らなかったのですが、学力調査の件、私の専門は国語なのですが、それから見ても、山本教育長の言うように相当高いところにあります。私が住む狛江と同じように小さい市ですけれども、やはりすごく特色があって、三鷹や武蔵野と匹敵するようなすぐれた部分を持っている市だと思っています。だから、私はこの図書館協議会は推薦によって入ったメンバーではありますが、非常に期待が大きいのです。

私は図書館関係の仕事もいろいろやっけていまして、あちこちの図書館を見たりすると、今の図書館の方向性はすごく大きく変わっていると思います。先ほどソフトウェアの話がありましたけれども、そういうソフトの提携についても、玉川大学が一昨年、非常に大き

な図書館中心の大学教育棟をつくりました。それは、ラーニング・コモンズという考え方を基盤にしている、今、大学はほとんどこのラーニング・コモンズを意識して図書館を作っています。そのようなものが普通の公立図書館でもなければいけないだろうし、そのような様々な多重機能や、もう一つはデジタル化の問題も出てきていますので、その問題も含めて、小金井市らしい図書館を作ることを今後も固めていく必要があるかと思います。その場合には、検討しなければいけない内容や項目が多いと思います。したがって、まともの方針の方法を受けてちゃんとやるなら、それだけの十分なものにしていく必要があるかと思います。ひょっとすると、これだけの人数だけで賄えるかどうかというのも課題だと思っています。

【菊池館長】 事務局でこの計画策定について、作り方が幾つかあるのですが、別に策定委員会を立ち上げて作る部署もございます。策定するためだけに委員会を作るということをございますが、小金井の図書館は図書館協議会に今までずっと諮問をしてきまして、こちらの協議会を踏まえて様々なことを議論していただいていたということもございます。別に研究会を立ち上げると、そことの兼ね合いもございますので、ここはやはり協議会を中心にさせていただこうとなりました。

近隣市は大きな図書館が結構あります。武蔵野市や小平市、府中市もあります。皆さんが使える図書館も結構ありますので、小金井市民の方も武蔵野はすごく良いと、もちろん私も行ってきましたけれども、様々な情報があります。ただ、今回の図書館計画を作るに当たって、小金井市としてふさわしい図書館ということで議論をしていただきたい。今の小金井市は様々な問題を抱えています。財政問題もそうですし、人口の増減もございますし、土地の地域性もございます。その中で、市民の方がどのような図書館を望まれているのか、小金井にふさわしい計画を作っていきたいと思っております。

【鴨下委員】 今の吉田委員と館長さんの話に続くのですが、図書館のあり方を考えるに当たっては、やはり勉強が必要だと思ひます。そのためには見学等も必要だと思ひます。近隣に武蔵野や府中や小平など、たくさん新しい図書館ができていますけれども、私は、今、館長さんがおっしゃった小金井らしい図書館をどのように作っていくかということがとても大事だと思ひます。武蔵野プレイスはとてもいいと言われてはいますが、中央図書館のあり方としてあれがいいかと思ひたら、武蔵野の中央図書館は違ひますよね。私はあそこが好きですけれども、そういう落ちついた、きちんと資料をそろえた、市民を啓蒙するような、内面的な充実を図るような中央図書館ならどのように作っていくか。府中

もそうですけれども、今は建物がとても重視されている時代みたいですが、やはりそれだけじゃなくて、ソフトの面を考えていく必要があると思います。

また、民間活力ということがすごく言われているのですが、民間活力を入れれば即いいのかどうかということも考える必要があります。行政としてきちんと責任を持った図書館を作り上げていくことも必要なのではないかと考えていますので、山本教育長は様々なところを見学してきましたけれども、私たちも勉強しながらやっていく必要があると思います。そのためには、回数も増やしていただいたり、検討期間もいつまでということ、長く設定していただいたり等、そういうことが必要かと思っています。

【菊池館長】 私はこの夏、九州の武雄、伊万里と、用事で金沢にいたので、金沢の海みらい図書館に行きましたけれども、それぞれ特色があり、どの図書館に行っても感動するところがあります。ただ、地元では明らかに成功されていますが、小金井にあのような図書館をそのままそっくり持ってくるというには思っていないので、やはりそこは小金井に向けたものを作っていきたいと思っています。

中央館という話もさせていただきました。中央館が本当に必要なかというところもあるかと思っています。今、こちらの本館が中央館的役割を果たしています。今後を考える中で、中央館が必要だという結論になった際に、中央館は蛇の目跡地の図書館であるという結論が計画の中で進んでいくかどうかというところもあるかと思っています。多摩地区には、国分寺市のように地区館を運営する図書館もございますので、その辺も検討をしてみる価値はあるかと思っています。

【石田委員】 今度、立川に東京都の図書館ができますよね。そういうのも身近だと思うのですが、山本教育長が自分でいろいろ回った図書館の記録をパワーポイントにしてお持ちです。鴨下さんの文庫連活動で、見たことがあります。1時間ぐらいかかりましたね。

【鴨下委員】 そうですね。

【石田委員】 話したこともあるのですが、教育長はとてもよく自分でまとめていらっしゃるので、非常に良い資料です。実際にそこまで行かれませんから、その参考資料を見せていただくことも協議の中に加えていってはいかがかかと思っています。良いのを持っているので、喜んでやってくれると思います。

【菊池館長】 そういったご意見をいただきまして、教育長に何えおそらく貸してくださると思います。

【石田委員】 多分、教育長がご自分で説明しながらやったださると思います。

【菊池館長】 そういったことも考えていきたいと思います。

【吉田委員】 今、山本教育長の話が出ましたけれども、それは私も見たいと思っています。山本先生も国語科の教員だったので、やはり思いがあります。しかも、国語教育においては、読書活動というのはなかなか十分にできていないという実態がございます。小学校はよくやっているのですが、中高は駄目ですね。高校は少しはいいかな。中学は最悪です。という実態があって、中学校の校長でもあった山本先生はそれなりの思いもあるだろうと思うので、1度、教育長の思いを語っていただく必要があるだろうと思います。

私は、大きなものを作ってやるというやり方は、もうそろそろお終いなのではないかと考えています。むしろ、今この図書館も大学連携をしていますし、そういう連携のネットワークを作っていき、ネットワークを構築していくという方向を小金井としては考えていく必要があるのではないかと考えています。

具体的にどうすればいいか。これは生涯学習の枠を少し超えてしまうのですが、学校図書館ともっと大きく連携をとるということが1つあります。つまり、学校図書館が図書館分館になってしまうくらいの発想。そういう中でいくと、今は施設的な問題もありますけれども、学校図書館と普通の図書館との融合性のようなものが、今はまだどこも図れていないのです。そのようなことも1つあると思います。

それからもう一つは、公民館施設のような公的な施設にネットワーク型の図書館を設置するという形もある。つまり、大きなものを1つ作るというよりも、ネットワーク全体を高めていく仕組みのほうが、どうもこれからの時代なのではないかと私は思っていて、せっかくだからここでそういうことができれば非常にいいのではないかと。まだどこもやったことがないようなことを小金井がやるのもなかなか面白いのではないかと考えています。

ということで、これは私自身が思っていることですが、山本教育長の意見等、ほかの図書館のあり方も検討しながら、独自のものを作っていきという方向がいいのではないかと考えています。

【中里委員】 今のお話や教育長さんのお話を私たちが伺うと、多分、「ああ、いいな」ということで、何となくみんな流される傾向には行くと思います。そのときに、果たして何が不足してくるか考えると、地域の方の声も聞きたいと思うのです。その場合に、大々的にアンケート等をすれば、かなり混沌としてしまいますし、費用もかかりますけれども、図書館分室を通じたりしてアンケートをとって集計するという事は可能ですか。

【菊池館長】 計画づくりの中で市民の方の声はすごく大事なことだと思っています。

アンケートについては内部で検討を進めているところです。各施設において、利用者の声を聞くという案も上がりました。ただ、来館者、図書館を利用している方の意見が中心になってしまうということもありましたので、そこは図書館を使っていない方の意見も聞きたいという話になったので、無作為抽出ですとか。個人だけではなく関連団体もございませよ。文庫連さんやハンディキャップサービスをしてくださるボランティア団体の方など。そのような団体の方にもお声を聞く必要があるということは感じておりますので、できましたら、次の機会にそのような話をさせていただければと思っております。

【中里委員】 ぜひ幅広く地域の意見を聞いていただきたいと思っております。

【坂野委員】 図書館のあり方について、別の観点から、小金井の制約の観点から議論のテーマに挙げたいのですが、6月18日に小金井市が行った公共施設等に関する市民意見交換会に参加しまして、そこでいただいた小金井市の公式の資料を見ますと、市内公共施設全部の建て直しの費用が現在に比べて今後毎年21億円、おそらく30年にわたって市民の負担が増えるとなっております。小金井市の第4次基本構想では、最大住民数が12万人とありますけれども、そうすると、赤ちゃんも高齢者も含めて1人当たり1万7,500円の負担です。4人の世帯ですと、1年間に7万5,000円になります。20年間合計ですと、150万円になります。つまり車1台分、小金井では負担増になります。この数字を同じ内容の資料を手に入れることができた新宿で見えますと、1人当たり負担増は1万7,500円が4,000円です。どうして少ないかという、新宿は建替え積立金があるからです。この差額は1万3,500円で、4人家族ですと、年間5万4,000円の負担差額になります。ということは20年間だけ見ても、子供がゼロ歳から二十歳になるまでですけれども、100万円以上の負担差額になります。これは公共施設の現状と同じ広さで維持したケースです。

そうすると、この負担増は、例えば10歳、二十歳、及び今後小金井市に入ってくる人の負担になりますので、人によって違いますけれども、小金井市における市民税支払いが2割から3割も上がることになる。この現状を、将来負担することになる若い人、小金井市に入ってくる人たちにきちんと開示して議論してもらい必要があるだろうと思っております。我々年配の者が作って、できたと思ったら資金の負担増は全部若い人に行くということです。「小金井市でこれだけ高い負担だったら新宿区に住むよ」という選択肢も与えながら決めていかないといけないというのが小金井の財政状態だということです。したがって、前回のときにも言いましたが、私は図書館本館は今の広さで十分だし、それ以上のものを小

金井市が持つ資金能力はないと思っていますので、2,000平米の中で工夫していただきたいと思います。

今、菊池館長のお話の中でも中央館は要らないのではというお話がありました。これは私も賛成です。したがって、財政面というのは、小金井にいる限りは絶対に忘れてはならないということをよく踏まえていただきたい。

もう一つは、今、吉田さんからラーニング・コモンズというお話がありました。以前では学習室的な感覚がありました。私もいろいろなところへ行っています。使えないという場合もありますけれども、非常に便利なのですが、小金井の図書館に合わせた場合、例えば単純に学習室を50室、図書館の中に作るとする。学習室なのでその性格上、利用者は中学生や高校生だと思うのですが、7月現在、小金井市の13歳から18歳は6,077人います。6,077人が50室では公平に使えるはずがない。倍率120倍です。平日含め一人平均で1年間で3日間だけの利用です。ということは、どうしても不公平になります。例えば、新しい本館を蛇の目跡地に作ったとすれば、貫井北町一丁目、南町一丁目、関野町一丁目にお住まいの方だと遠くてバスの便もありませんから、手軽に使えない。結局周辺にいる人だけがよく使うという不公平になります。ですから、そういうふうな図書貸出し以外の副次的な機能・施設の拡張というのは、かなり不公平を伴うということで、私はこれに反対したい。学習室を別途作るのはいいですが、図書館の予算の中で作るというのは避けていただきたいということを強く思っています。

このような財政事情は今後議論していきたいのですが、もう一つ非常に悩ましい、困ったことがあります。協議会としてはどうしていいかわからないので、図書館長にしかるべき所で問題点として上げてほしいのですが、それは新聞に載ったことです。ですから、名前を挙げて言いますと、朝日新聞の6月21日朝刊、先々月ですが、11ページに載っています。タイトルは「働く場所も時間も自由 ユニリーバ、7月から」。要旨だけ言いますと、「日用品大手ユニリーバ・ジャパングループは、約400人の社員が会社以外の場所で自由に働くことを選べる新制度を導入すると発表した。標準労働時間や休憩時間を守りさえすれば、カフェや図書館等好きな場所で仕事ができる。図書館が仕事場になる。」と。

これはどうなるかという、図書館が昼間は企業のオフィスになるわけです。図書館は住民の生涯教育の場ではなかったのかと思うのですが、こうやって堂々と発表しているわけです。朝日新聞は何のコメントもしていません。目的外の利用であり、とんでもないことだと思いますので、これを避けたいのですが、学生の場合は見つけるのが簡単で、教科

書や参考書を広げていますので、何をやっているのと言えるのですが、会社の人間に図書館の机で仕事をされてしまいますと、閲覧者かどうかわからないのです。パソコンを持ち込んで、電源もつなげて、オフィス代わりにされてしまいます。これでは図書館の座席が昼間から全部占領されてしまう。これを何とかして避けたいなど。

図書館で仕事をすると堂々と言っています。多分、会社が発表していると思いますけれども、これをしかるべき所、どこがいいか私もわかりません。経団連がいいのかどうか。これはカフェでも同じように言える悩みだと思います。カフェも、座り込んで仕事を朝から晩まで8時間やられたらたまらないと思うのです。こういう文句、要望を一体誰に言えばいいのかわかりませんが、これは図書館で早急に対応しないと、純粋に生涯教育として使いたいという人が妨げられてしまうという事態がすぐ出てくると思います。図書館が本来の役割を失ってしまいます。この3点を申し上げます。

【菊池館長】 坂野委員から幾つかお話いただきました。今、公共施設等総合管理計画の策定を、先ほどお話ししたように市では進めております。老朽化が進んでいるということについて。建て替えですとか、市の厳しい財政状況もお話しいただいてございます。市として公共施設をどうしていくかという計画を作っております。そんな中、図書館は図書館計画を作っていないといけないということがありまして、そことの整合性の関係や、市の計画と合わせて見ていかなくてはいけないと思っております。図書館のビジョンを見ていく中で、どういったものが施設の中に必要なのか。先ほど吉田委員からもありましたけれども、もう器の問題ではないのではないかというご意見もございました。一般的に、この前いただいたご意見ですと、4,000平米あればいろいろなものが入るというご意見でした。それはそれで貴重なご意見だと思います。今後は計画策定に入りますので、もう少し小金井市の現実を見つめていただいて、実際どのようなものが良いか合わせてご検討いただければと思っています。

【中里委員】 先ほどの坂野委員の朝日新聞の記事に関しては、小金井市立の図書館の利用規則を作ってまたは改正して、それに則って運営をすれば、大きな全国的なことは解決できないですけれども、個々に小金井市としては、例えばそういう利用者は認めない、時間制限を設けて認める、電源はどうするのか等々の問題点を解決する手段はあろうかと思っております。現在でもきたまちセンターは、実質的には図書館所蔵の本を1冊持ってきて置いておけば、読書をしているという形をとりつつ、ほかの業務をしているということも現実的にはあるわけですから、そこは利用規則で職員の方に対応いただくということで解決

するしかないのではないかという気もするのですが。

【坂野委員】 その点は現状をご覧になればわかりますけれども、貫井北分室に行ってみてください。すごいですよ。ナンプレをやっている方、数独をやっている方、クロスワードパズルをやっている方、ひどい方ははさみを持って手作業をやられている方、そういう状況で、モラルが非常に悪いです。これは貫井北だけではありませんので、他所の図書館を含めてそういう状況ですが、おっしゃることはわかります。貫井北分室は工夫しています。ちょっとした記録紙を置いて減らそうとしていますけれども、それでも無理だと思います。今申しました問題は、会社の作業というものは見分けがつかないことです。私のポイントは、そういうふうな状況、動きがあるので、これは我々が被害者ですので、問題の根っこを絶たないといけない。図書館というのは本来、生涯教育という、もっと大げさに言えば、民主主義社会の形成を支えるものだというのをわかってくれるように言わないといけないということで、それは図書館長や小金井市だけの発言では足りません。全国図書館協議会でもできると思うのですけれども。とにかく新聞に載りました件に反論する意見を図書館側として上げていただきたいというのが私としての意見で、被害者は自分で我慢するという事に甘んじたくないということが1点です。

それからもう一点ですが、図書館、特に貫井北分室と東分室は業務を委託をしているかと思いますが、そのような注意をすると。注意をするということは「あなたは何の作業をしているんですか」という個人の意向を聞くときがあると思いますが、そのような運営方針や運営状況を正すということまで委託しているのでしょうか。そのようなことを聞くのは非常に微妙なところなので、委託するのはかなり難しいと思うのですが。その点は見直し等も含めてしていただいて、対応についてそれなりのご検討をいただければというようには思っております。

【菊池館長】 今、お話しいただきました貫井北分室は、ほかの施設に比べて閲覧スペースがたくさんありまして、新しいということもあって、たくさんの方にご利用いただいております。やはり、座席を長くお使いになっていらっしゃる方がいて、なかなか空かないといったご意見を他の利用者の方からいただいたこともございまして、3時間を限度にお席を譲り合って使ってくださいということで、貫井北分室に紙を張ってあると思います。

ただ、内容について「何をしていますか」と、そこまでのことはこちらでは特に把握はしていません。図書館の使い方はいろいろあるかと思いますが。じっくり本を読まれる方、図書館の本を見て勉強される方、いろいろあると思います。図書館の参考資料室で辞

書を引きながらゲームをする方もいらっしゃいます。使い方は様々でございますので、図書館で様々なことをする方がいらっしゃるということは、それだけ市にそのような場所がないのではないかと、様々なことをさせてもらえるスペースがないのではないかと感じております。それについて図書館を使っていくべきなのか、図書館はやはり本を読むところだから禁止すべきなのかについては、この後の議論になってくるかと思っております。

【鴨下委員】 今の坂野さんのお話は、やはり図書館利用のモラルの問題だと思うのです。それを上からの禁止事項で拘束していくことは無理なのではないかと思っております。そういうモラルをどのように作っていくかということで、例えば、図書館にはテーブルの上に「ここは児童の席ですので大人の方はご遠慮ください」ですとか「ここは新聞を読む場所ですので長時間の読書はお控えください」等、先ほどの貫井北分室の工夫もそのような一環なのではないかと思うのですが、そういう図書館活用のモラルを作っていくのも必要なことなのではないかと思っております。

それともう一つ、予算のことですけど、小金井市は何かを計画したり何かを要求すると、すぐにお金がないという話が出てきます。お金がないのは確かですけども、無駄遣いも沢山しているのです。一つ、ごみ処理の話でも、日野の方が「小金井市はこんなにお金を出しちゃっていいの？」と言うぐらいじゃぶじゃぶとお金を出していても、それがあまり問題になっていない現状がある。様々なお金の使い方があると思っております。そういうことも見直しつつ、もし必要なら図書館を作るためなら図書館建設基金ということで市民に呼びかけて、一時的に借りる、もしくは寄附を募るなど様々な方法があると思うのです。そうしたら、小金井市の市民というのは、生活は質素ですけど、意外とそういうことにはお金をを出してくださる方もいますので、そのような考え方も持ちつつ自分たちで幅を決めないで、こういうものを作りたいのでお金をみんなでどうにか出しましょう、考えましょうと。そういう考え方ももう少しできるのではないかと思ひ、私はあまり悲観していないのですが。

基本的なことは、どういう図書館をつくりたいか、それをどう活用していきたいか、市民のためになるような図書館はどのようなものなのかという、そこが一番大事で、やはりお金のことも考えていかなければならないので、インターネットをどのように活用するか、大学の図書館をどのように活用するかということも必要だとは思いますが、私はお金のこととモラルのことは、そのように考えていきたいと思っております。

【田中会長】 そのほか、何かご意見ございますか。

【鴨下委員】 もう一ついいですか。以前、小金井市の複合化という懇談会に出たのですが、私はそこでとても疑問を感じました。先ほども、複合化ありきでマンションと図書館を一緒にしたらいいのではないかという意見が出ていましたが、複合化というのは一見すると魅力的に感じますが、そのための大きな建物を建てなければならず、複合化した際には、それをどのように運営していくかを考えなければなりません。マンションと複合化した場合はマンションの住民と図書館とで今後、協議しなから図書館の運営を行っていかなくてはならなくなる。そのように考えると、複合化ありきではなく、やはり市のものは市のものとしてきちんと維持していくことが私は必要になると思っています。

【田中会長】 そのほか、何かございますでしょうか。

図書館計画を立てるに当たり、皆さんそれぞれ思いや考えがいろいろあることとは思いますが、やはりそういう意見を話すにしても、あっちこっちへ話が飛んでしまう。やはりハード面をどう考えるか。事業計画や評価、運営方針等のソフト面をどう考えるか。それからもう一つ、大切なスケジュールを考えなければなりません。時間単位で、いつまでにこの話をきちんとまとめなければならないのか。そのためには予算的な措置も含めて、ハードにこれぐらいの予算をかけられるならどういうものを入れられるのかという話と、先ほど言ったネットワークの話等も全部入ってくるので、具体的な素案のようなものを用意していただいて、そこでその論点に関して協議するというのが1つです。

それから、図書館協議会としての限界というのはどこかあるような気がします。1つは、先ほどの専門家の意見というのが、どこかで入ってこないといけないというのと、逆に市民ニーズのような、一般市民の人がどのようなことを考え、要求しているのか把握しないといけない。その他にも回数の問題等いろいろと限界はあるかと思います。その辺を少しまとめていただいて出していただかないと、こちらとしては丸投げするしかないのではないかと考えてしまうところもあるので、大変だと思います。

【菊池館長】 ごもつともだと思います。本日、図書館のあり方という大きなテーマのもと協議をしていただくなかで、どこから手をつけていいのかというご意見は、おっしゃるとおりだと思います。今、これだけの時間で様々な意見を出していただいたので、あとは事務局のほうで書き出しました素案の素案みたいなものをお出しして、それをもとに考えていただくほうが話が進みやすいのではないかと考えています。

先ほど、アンケートのご意見もありましたので、アンケートは実施する方向で進めていきたいと思っています。アンケートの集計結果もまぜて素案のたたき台を作ってお示しす

るような形にしていければと思います。

【田中会長】 いろんな視点があったと思います。経済的なお話もあり、基金を作ったらいいのではないかとのお話もあり、大きさにこだわらずに、今の時代ですからもっとネットワークを使おうと。あるいは、この間も少しお話ししましたが、学校の図書館を使ったらいいのではないかと私が言ったら「そうはいきません、予算も違います」と言われました。お金がないのなら一緒にすればいいのではないかと普通の人は考えると思います。そういう視点も入れて、うまく調整していくことができればいいかと。

【菊池館長】 そうですね。もとのたたき台をお出しして、そこからご意見いただいて、方向性を作っていければと思っています。

【田中会長】 規制される部分があると思うのですが、鴨下さんがおっしゃったように、あまり限界を作った中で始まると、話が進まない気がするので、少し夢を持って話ができればいいと思います。線引きというか。

【坂野委員】 そうしますと、それを送っていただくときに、今、挙がった意見以外に思いついたら、例えば、メールで送らせていただいて、回答していただくという方式はよろしいですか。

【菊池館長】 素案をまだこれから作るころなので、まずはアンケートから始めますけれども、このようなことを市民の方に聞いてみたいという形で、その素案を出しまして、皆さんが聞いてみたいこと、計画にはこういったことも必要だと思うことを言っていて、その後に、いきなり完成形を出すのではなくて、計画の柱みたいなものをお出しし、こんな形で作っていきますという流れにして、その次にアンケートと柱の中身についてまとめ、素案をお示ししていきたいと思います。

なので、順繰りに、この段階で意見をくださいというタイミングでご意見をいただければと思います。

【石田委員】 今回は事前に資料をいただき、前もって読めたのでとてもわかりやすかったです。ですから、やはり資料は前もって欲しいということと、今、坂野さんがおっしゃったように、個人で図書館に送ると、個人対図書館に、そこに私たちが入ってこれないです。ですから、図書館が出されたものに対して、こういう場で坂野さんの意見は拝聴します。

【坂野委員】 いや、本日の冒頭で岡本さんがおっしゃっていました質問は私が出したのですけれども、そのように回答はこの場でお願いしますということです。

【石田委員】 ええ、ですから、個人の意見もこの場で言っていただけたほうが。

【坂野委員】 おっしゃることはわかりますけど、そうすると、回答をすぐ得られません。ですから、あらかじめ質問を出しておいたほうがいいかと思います。

【石田委員】 それは質問の域だけで、個人の意見はそこに含めない。もし個人の意見がおっしゃりたいのであれば、大変ご足労ですが、この協議員の人数分だけ自分で印刷してきて、私の意見ですが一読くださいという形で、私たちの手元にその書類が残ると、次回の会議までに、坂野さんの意見に対して私はこう思うという意見が、それぞれが述べられると思います。ですから、質問なら質問の域だけで、個人の意見というのは皆さんで共有していただけるほうが私はいいと思います。

【坂野委員】 そうすると、手順について確認したいのですが、ここで皆さんが意見をおっしゃっていただいたのを、本日、私は初めて聞きました。当然ながら議論された意見ではなくて、皆さん個人として話されている。私は今回、西村さんをお願いして、岡本さんから冒頭でお答えいただいたのは、回答に準備が要る、実際そうだったのですけれど、一部その場でわかりませんと書いてあったので、電話でお尋ねしました。それをこの場で回答いただくと言う流れにしました。そういう形での意見はまずいのでしょうか。そうでないと、皆さんが発言されることも、本日、皆さんの意見を私は初めて聞きます。個人の意見として。

【田中会長】 こういう資料に対する質問や、あるいは時間がかかるような、調べなくてはいけないものについて事前にご質問されるのはそれでよろしいかと。そして、その回答を皆さんでいただくというのは全然問題ないと思いますので、それはいいと思います。

ただ、石田さんがおっしゃっていたのは、図書館側に個人の意見だけがいってしまうと、ほかの人がわからなくなってしまうということを懸念していると思いますので、何らかの形でわかるようにするか、あるいは、出てきた資料の前にそういうのがわかれば。そんなに難しい問題でなないかと。

【坂野委員】 例えば、アンケートに答えるのは構わないわけで、今回、少し問題になったのが……。

【菊池館長】 すみません、事務局からです。坂野さんには事前にご質問がありますと、この場で言ったほうがいいですか、それとも用意が要るのだったら事前に質問を送ってもらったほうがいいのかというお話があったので、事務局からは、すぐに回答できないと困るので事前にお願ひしますと言った経過がございます。

ただ、その前に戻って、計画案の中に自分の意見を入れていきたいのであれば、やはりこういう場で、皆さんで共有すべきということです。

【田中会長】 そのほか、何かありますか。

では、この議題1につきましては、次回、素案の素案のような、様々な考え方を本日皆さんに披露していただきましたので、それを盛り込んだ計画案の前段階ぐらいの形を作成していただいて、当然、図書館側の考え方や市の考え方もあろうかと思しますので、制約、制限も含めて出していただければ会議も散漫にならないで、ある程度方向性を持っていくのではないかなと思いますので、よろしくお願いいたします。

【藤森委員】 坂野さんに少し個人的にお聞きしたいのですが、先ほど、図書館で仕事やパズルをするということについて、皆が同じ権利を持っているのに独占していることは、民主主義ではないとおっしゃいましたよね。

【坂野委員】 少し趣旨が違いますけれども、「民主主義」とは言いました。

【藤森委員】 そういったことをおっしゃって、私は初めてそういうことに気づかされて、驚きました。図書館で何か食べたり、飲んだり、騒いだりということはもちろん論外ですけども、図書館の本をおとなしく読むこと以外はしてはいけないのでしょうか。

図書館は学校でないのですから、本を読んでいて仕事と関連してくる場合や本を読みながら勉強していく場合もあり得ます。流動的な場所として使うことも考えられると思いますが、それに対して「何やっているんだ」と怒られるとなると驚いてします。実際にそういう不便な目に遭われたことがおありなのですか。

【坂野委員】 ええ、貫井北は百数十回行っています。最近だと7月上旬に調べ物があって行ったら、31席のうちの7割は参考書を広げている学生でした。それ以外にクロスワードパズルをやっている大人が2人、それから、紙を持ってきて手作業をしている大人が1人、もっとすごいのは、あそこは高さ50センチぐらいの子ども用の机があるのですが、中学生と高校生が使っていましたし、大人も使っていました。そういう状況です。おそらくこれまでに二、三十回このような状況を見て、満席のためやむなく退散しました。

ある図書館には100席余りそのような閲覧席があります。あるとき、どうしても調べ物があって行きましたら、全席のうち9割が学生です。座れなかった、待っても空かない、こういう経験があります。

ただ、おっしゃる意味はわかります。その点、武蔵野プレイスはよくできています。1階を見ればわかりますけれども、1階に雑誌を置いてあります。高齢者の方には椅子がか

たいですけれども、あれは非常にいいアイデア。あれはまさに、そういう福祉関係のスペースに図書館の機能を置いている。そういう発想に切りかえるべきじゃないかということです。私が気にかかっているのは全て小金井市での予算制約についてです。つまり、そのような学習机にしかなくてないような閲覧スペースで維持費がかかれば図書購入予算がなくなるのではないかと懸念しています。実際に去年の11月23日に、上石前館長が実は追加予算をしていると言っておられました、そのような状況ですから、やはりそれはやめていただくというのが小金井の状況です。

ほかのところは違いますよ。有名な山梨県立図書館に行ってみましたけど、発想が違いますからそれはそれでいいかもしれません。全然違います。ところが、小金井についてはそういう資金的余裕が全くないのです。小金井の家庭では市内全施設建替えて20年間に車1台分の税金が増える状況ですから、図書館では最低限のもの、つまりまず図書購入を充実していただくのが必要です。これも、後ほどまた、図書館のあり方で議論させていただきますけど、吉田委員がおっしゃったネットワークをもっと進めて、「出前」図書館として、公民館や福祉会館は当たり前ですが、場合によっては提携できるならばスーパーマーケットで貸し出してもいいのです。北にも南にもたくさんありますから便利です。それぞれの窓口さえ借りればよく、費用をかけなくてもその現状の建物だけで十分、そういう発想です。

それと、「民主主義」については、この協議会に入った最初に「我々は公務員ですか」と事務方に聞いて「公務員です」というお答えだったので、当然だと思ったのですが、図書館法を調べ勉強しました。図書館法そのもの、図書館のあり方そのものが生涯教育なのです。生涯教育を通じて、自分の好きな本を好きなタイミングで選べるような環境を作ってあげることが重要であって、決して作業の場所を提供する場所ではないのです。これは学校教育と大きく違います。学校教育はスペースが空いていれば、実際に私は近くの大学で見ましたけど大きなスペースの間に布切れを広げて裁縫している学生がいました。それはそれで構わないと思います。ただ、市立の図書館は生涯教育の場所なので、市の予算がない中で危機感を持ってほしい。

繰り返しますけど、当然ながら空いているときもあります。そのようなときに勉強している浪人生は、それは構わない、満席ではないから。満席のときに7割が学校の宿題などをやっている、これは少し違う。私の経験です。おわかりいただければと思います。

【藤森委員】 宿題や試験勉強をしてはいけないということは初めて知ります。

【吉田委員】 すみません、これは運用の問題もあります。例えば、席について用途を絞れば運用の段階で分けることもできるので、その辺はそれぞれ全体的なあり方の問題ではなくて、各館の運用なのではないかと私は思いますが。

【鴨下委員】 私も少し図書館は堅苦しいところなのかと、今の意見を聞いて思ったのですが、私は図書館を使って勉強をしていました。図書館を使って調べ物をしていまして、大家族で部屋も狭かったし、勉強する場所がうちではなかったのも、図書館へ行って勉強をするのは私だけでしたけど、やはり様々な使い方があっていいのではないかと。それがまた、迷惑にならないようにできればいいのではないかと思っております。

【坂野委員】 図書館で迷惑じゃなかったらいいのですが、なぜ学校でしないのかと、私は不思議に思ったのですが。

【吉田委員】 いや、申し訳ないですけども、学校は変な話、4時以降、部活のない生徒は下校しろと言います。だから私は、今、そこを問題として、学校と図書館とのネットワークをきちんと作って、そして、学校はもう少し公共施設としての意義を学校自体が考える必要があると思うのです。学校があまりに閉鎖的な部分があるのです、これは。施設のようになっていくところもありますが。なので、もう少し踏み込むと、学校教育との連携や予算の問題など、かなり提案的で、生涯学習を超えてしまうところが多分出てくるのではないかと思います。どこまでそれが可能なかわからないのですが、提言だったら別にそれは構わないだろうとも思います。

【田中会長】 まだいろいろご意見もあろうかと思いますけれども、石田さん、何か言いたそうな顔をしていましたが。

【石田委員】 いえ。(笑)

【田中会長】 内田さんは。

【内田委員】 すみません、本日、少しおくれて来て申し訳ないです。途中のどこかでお話が出たかもしれないのですが、P連から質問というか、図書館にお願いを預かってきまして、先にいただいた読書推進計画の2番、図書館の(14)に、学校・学校図書館との強力な連携というところで、学級文庫への団体貸出、市教研との意見交換会を実施したとあるのですが、今、各学校で対応がまちまちだということで、各学校からボランティアの方が選書に行っていたり、司書の方が選書に行っていたり、または各学級の学級委員のお母さんが選書に行っていたり、学校によって対応がまちまちな状況だそうです。

借りる冊数も、何十冊から100冊等单位を、図書館から学校にデリバリーしてくれる

ところと、個人で持ち帰ってくださいというところと、それもそれぞれだと言っておりまして、そうしますと、個人で保護者が請け負っている場合は、非常に負担が大きいと聞いています。なので、その辺の対応を図書館で何か一律にしていっていただけませんか。

一つの例としては、立川は図書館で選書からデリバリーまで全部一括してやっているという話も聞きましたので、それがいいのか、学校ごとに希望に沿ったものを、選書したほうがいいのか、その辺はまだ、P連にも伺ってはいないのですが、そんなところを今後考えていっていただきたいというお話を預かってきました。

【菊池館長】 今、ご質問をいただきましたので、担当が不在ですので私が答えられる範囲で。

学校への団体貸出ですけれども、始まった頃よりもかなり増えまして、今、ほとんどの学校でご利用いただいているところです。本館を利用いただいているクラスには、本館は各館を回っている配送便がありますので、その配送便に載せて、そのときに学校で降ろしてもらうことはできるのですが、分室にはその機能がないということから、分室をご利用いただく場合には、申し訳ないですが、ご自分たちでお持ち帰りくださいとお願いしております。また、蔵書数も違いますので、分室の場合は冊数が50冊以下と少なくなっているところもございます。

あと、お話がありましたデリバリーについてですけれども、団体数が増えたときに考えました。図書館で1年生用や2年生用といったパックを作って、時々中身は更新していきながら、要望があったときに各学校に貸出するシステムを構築している図書館がございます。うちもそれがいいと思ったことがあります。というのは、団体貸出は結構職員の負担が大きいのです。1日の利用クラス数は決まっています、そのときは窓口で団体貸出要員も増やさなくてはいけないところもありますので、パックにすれば言い方は変ですけれども、すぐに貸出でき、選び手としても選ぶ手間がなくなる、選び方がわからない方にも好都合という考えもありました。

ただ、パックは結構な量になりまして、それを保管する場所の確保が難しく、そこまでいけない現状があります。良くないというよりも、手が出せないという結論で話が終わっていて、今の方法になっています。

【田中会長】 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

時間をオーバーしてしまいましたけれども、皆様から何かないでしょうか。なければ、本日はこれで終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

— 了 —